2024 年度　日板協/全板連青年部　最優秀青年部アワード

青森県板金工業組合青年部事業報告

事 業 名：チームワーク部門
課　　題：「定めた目標に協力して取り組み団体力の強化に挑む活動」
担当役員：青森県板金工業組合　理事長　小山内喜代司
　　青森県板金工業組合　副理事長　勝又祐人
県 部 長：青森県板金工業組合　青年部　部長　越田武馬
企　　画：青森県板金工業組合　青年部理事会（協議 2 回・審議 1 回）
委 員 長：青森県板金工業組合　青年部会　青森支部　支部長　西村　拓
広　　報：青森県板金工業組合　青年部会　津軽支部　支部長　齋藤　章
　　青森県板金工業組合　青年部会　西北支部　支部長　山口浩輝
計　　時：青森県板金工業組合　青年部会　OB　小山内　司
記　　録：青森県板金工業組合　青年部会　書記　八幡　充
　　青森県板金工業組合　青年部会　監事　大沢源基

【事業に至る背景】

最優秀アワードチームワーク部門への取り組み。課題は「定めた目標に協力して取り組み団体力の強化に挑む活動」。今年で 53 回出品運行している『青森ねぶた祭り』を上げ、青年部会創立（昭和 51 年）初代会長・勝又貞治より連綿と受け継がれる団結力、「絆～鋼の結束～」の下、昨年に引き続き「運行・跳人賞」2 年連続入賞を目標に進行した。もちろん、親組合の目標は「ねぶた大賞」であるが、青年部会は初代会長より、ねぶたの花形であるねぶた本体を操る「扇子持ち」を継承しており、その指揮のもと青年部員が「曳き手」としてねぶた本体を運行する為、目標を別としている。また、この賞には全国各地から参加する跳人も含まれるので、協調性を高めるためには昨年以上の連携が必要となるが、チームワーク部門への取り組みが、良い機会となり、再度、全体の運行を見直すきっかけに繋がる。

【事業目的】

・先導が親組合の支部長、そして役員団と続きタイムキーパーの役割を担うので、連携強化。
・跳人の統制で、親組合と青年部会でスピード調整するための共同作業。
・囃子方が跳人を盛り上げ「跳ねさせる」、曳き手もそれに合わせて見えを切り、お互いを高め合う。
・曳き手は、安全運行で観客を盛り上げる。

青森県板金工業組合としての PR はもちろん、建築板金の「担い手確保」、業種の周知、

鉄鋼メーカー及び商社と団結し、広く業界を盛り上げることを目的とする。

【事業概要】

1. 実施期間：2024 年 8 月 2 日（金）～7 日（水）
2. 運行会場：青森市中心部、ルート（平和公園通り、国道 4 号、八甲通り、新町通り）
   約 3 ㎞を練り歩く。
3. 参加員数：対象　部員 54 名　商社 32 名　86 名
   結果　部員 30 名　商社 32 名　62 名　72%
4. 運行までスケジュール

令和 6 年 1 月 26 日　親組合　第二回役員会参画　ねぶた出陣同意
令和 6 年 2 月 24 日　青年部会　第一回役員会　ねぶた出陣報告
令和 6 年 2 月 26 日　青森ねぶた運行団体協議会　全体会議参加
令和 6 年 3 月 5 日　親組合　第一回理事会参画　ねぶた運行『下絵の確認』
令和 6 年 3 月 18 日　ねぶた師北村春一氏よりねぶたの題材変更依頼
令和 6 年 3 月 22 日　青年部会通常総会　ねぶた予算決議
令和 6 年 4 月 29 日　ラッセランドへねぶた資材搬入
令和 6 年 5 月 27 日　青森ねぶた運行団体協議会 全体会議（抽選会）
令和 6 年 7 月 1 日　親組合　第一回福利厚生・技能・教育委員会参画　運行方法検討
令和 6 年 7 月 1 日　親組合　第一回総務・事業委員会　業界 PR 方法検討
令和 6 年 7 月 13 日　親組合　第二回理事会参画　ねぶた役割確認
令和 6 年 7 月 13 日　親組合　ねぶた実行委員会　ねぶた運行打合せ会議参画
令和 6 年 7 月 20 日　ねぶた台車搬入
令和 6 年 7 月 21 日　ねぶた台上げ　各メーカー前ねぶた作成協力
令和 6 年 7 月 22 日　青森ねぶた運行団体協議会　運行委員会参加
令和 6 年 7 月 25 日　青森ねぶた運行団体協議会　前夜祭委員会参加
令和 6 年 7 月 27 日　ねぶた寸法測量
令和 6 年 7 月 29 日　青森ねぶた祭運行許可証受領式参加
令和 6 年 8 月 1 日　青森ねぶた祭り前夜祭
令和 6 年 8 月 2～7 日青森ねぶた祭り
令和 6 年 8 月 8 日　ねぶた解体
令和 6 年 9 月 10 日　青森ねぶた祭運行委員会反省会参加
令和 6 年 10 月 2 日　親組合　第一回共同購買促進委員会　PR 状況と今後の戦略
令和 6 年 11 月 5 日　親組合　第三回理事会参画　ねぶた仮決算書について

令和 6 年度青年部会通常総会

・前年度の「運行・跳人賞」受賞の快挙におごらず、今年度も受賞を目指して取り組むとし、青年部会の担当である「ねぶた本体」の曳き方を検討。
・近年、青年部員の維持に努めてきたが、PR の為には、青年部員全員の協力が必要、それでも総重量 4t のねぶた本体を 3 ㎞曳くには人数が足りないので、OB の助力を要請。
・跳人問題、全国から集まる『ライダー跳人』を統制するにあたり、青年部会の人員も減少している中で、運行中の跳人誘導とペース配分を管理するのは毎年の課題となっている。今年は、『ライダー跳人』から数人の代表者を選任し、跳人スペースの四隅と最後尾に 5 名配置し隊列の乱れを修正してもらうよう要請。同時に前年同様、花笠の着用もお願いした。

ねぶた下絵確認『黄泉比良坂伝説』

ねぶた師　北村春一より

※3 月 5 日の親組合第一回理事会において題材を『義経北行伝説』で提出したが、構成イメージが役員団及び青年部会とも承認が下りず変更になり、再構成の結果『黄泉比良坂伝説』となる。

ラッセランドねぶた小屋へ資材搬入

組合事務局のトラックも導入し、ねぶた他団体と合同で資材を搬入。
(ねぶた師の契約している団体
・青森県板金工業組合
・日立連合ねぶた委員会
・NTT グループねぶた
・パナソニックねぶた会　4 団体合同
　他業種との良い交流の場になる。)
木材及び針金、その他作業資材・工具類。
ねぶた師が本格的に作業に取り掛かる。
青年部会は台上げに向けて準備。

ねぶた台上げ

・青年部会はもちろん、親組合、女性部会、メーカー商社、事務局職員、囃子方一心會と関係者総動員で、台上げ。
・ねぶた師の北村春一氏が配置を指示し、扇子持ちの青年部会・越田会長の号令の下、ねぶた本体及び送りの 4 ツのパーツを複雑に絡み合わせ、慎重に台に上げる作業。歴代の青年部会・会長と親組合が四方を確認しながら安全に配慮し作業する。

今年から各団体の扇子持ちにスポット

・青森ねぶたの花形である、大きな責任を担っている扇子持ちが、より安全にパフォーマンス出来るよう、講習会や運行指導が強化されている。24 団体の中では、中堅に位置する越田会長ではあるが、板金組合『扇子持ち』の継承が非常に評価され、パフォーマンス力では五指に入る。

ねぶた出陣式

・青森県板金工業組合　組合員
・青森県板金工業組合　青年部会
・青森県板金工業組合　女性部会
・日本製鉄株式会社
・日鉄鋼板株式会社
・日鉄物産株式会社
・株式会社シグマット
・NS 建材薄板株式会社
・JFE 鋼板株式会社
・JFE 商事鉄鋼建材株式会社
・囃子方　一心會
・総動員で安全祈願

建築板金 PR

・毎年『8 月 3 日は建築板金の日』を掲げねぶた運行。

ねぶた運行

・運行は『扇子持ち』の青年部会・越田会長。
・四隅の安全確認を青年部会 OB が固める。
・前衛を青年部会 20 名で曳く。
・後衛は青年部員数が不足している為、アルバイトを起用している為、指導及び伝令に青年部員 2 名を配置。
・数年前のように青年部員だけであれば自在に連携が取れていたが、アルバイト起用で改めて指導力及び伝令の為の表現力を見直すきっかけになった。

・OB 及び親組合のアルバイトへの指導に関する助力を頂き、2 日目にしていつものパフォーマンス力を発揮。
・前の見えない後衛との連携は重要であり、『扇子持ち』の指示がしっかり伝わらなければ、大事故に繋がる。
・板金組合は今年も対物への接触もなく、無事故で運行を終えた。

太鼓台

・昨年までの太鼓台が老朽化により廃車となった為、今年から新しい太鼓台で出陣。製作は勝又金属工業㈱様に依頼し、建築板金のイメージを全面に PR 出来るデザインにした。全 24 団体の中でも特に太鼓台に力を入れている。

反省会

・今年は目標に掲げた入賞には至らず、『反省会』という形になってしまったが、改善点も多数見つかり、また新たな目標に向かい業界の壁を越えて団結が強化された一年と思える。

・入賞には至りませんでしたが、業界を PR するパフォーマンス力を発揮した運行と、また親組合からの激励を込めた奨励を頂きました。

【実施上の問題点・反省点・改善点・引き継ぎ事項】

- 運行・跳人　順位　4 位
- ねぶた　　順位　5 位
- 囃子　　順位　8 位
- 総合計　　順位　6 位

・先頭の親組合、役員団及び商社メーカーの進行はスムーズであるが、タイムスケジュールより早くならないよう弱冠の調整が必要。110ｍ範囲内での連絡強化に工夫が必要。
・運行は盛況であったが、盛り上がりすぎてねぶた本体の遅延を生んだ。
・親組合、青年部会ともに祭りの進行状況を適切に把握していた為、親子喧嘩しながらも他団体に影響を及ぼさないよう、手持ち時間ギリギリのパフォーマンスをすることが出来たが、やはり、運行形態の維持にはいたっていなかった。
・囃子方は新車の太鼓台が初出陣であり、タイヤを含む下回りに調整が必要。
・跳人はまだ「コロナ禍」以前の人数には回復していないものの、精一杯盛り上げてくれた。『ライダー跳人』に頼り切りでは申し訳ないので、板金業界としても地元の参加を募る。
※上記順位で総合的には入賞を逃したが、青年部会のパフォーマンス力は評価されていると思う、また全国各地からくる『ライダー跳人』の統制も親組合との連携が功を奏していると実感している。次の課題は、青年部会の参加部員の減少である。祭りには全員参加したい意思はあるものの、業界の担い手不足が解消しておらず、仕事に追われる日々、組合員は毎年 1 名から 2 名の新規加入はあるが、以前、高齢者の脱退が続くので、この祭りで上位入賞を目指し、より一層の PR を図りたい。

【総評】事業を終えて

本事業は、板金業界及び商社の協力を得て、毎年運行が出来るものですが、青森県板金工業組合のねぶたに全国から参加して下さる『ライダー跳人』の皆様、また、囃子方で『一心會』の皆様は、業種も思想も全く違う、他業種の方たちで構成されていて、幸運なことに我々は毎年この多種多様な方々と情報交換の場があり、また板金業界の PR の場を頂いています。『ライダー跳人』から運行中も『ラッセラー・ラッセラー』の掛け声のあと『板金』コールも絶え間なく大変有難く思います。この祭りを安全により良いパフォーマンスを成功させるには、団体としての団結力及び他業種との協調性も必要なことが分かります。親組合や青年部会、跳人と囃子方、互いの立場で全力を尽くし、全力だからこその衝突を繰り返し、改善点を洗い出し、修正しまた実行することの繰り返しで、同じ祭りでも運行方法や隊列の変更により毎年変わる『青森ねぶた祭り』には常に新たな団体力の強化が必要なことを痛感させられた。今年挑んだ活動が経験として積み重なり次に繋げて行けると思います。